

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200081		
法人名	株式会社 サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル 笑明かり・咲明かり(笑明かり)		
所在地	愛知県一宮市浅井町尾関字西五輪26番地		
自己評価作成日	令和元年12月20日	評価結果市町村受理日	令和2年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyo_syoCd=2392200081-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

掃除・洗濯・調理・買い物等を共に行い、アットホームな雰囲気作りを大切にしている。個々の力を維持し、達成感が持てるようにしている。遠足・モーニング・ランチ・散歩等外出が多く、気分転換を図り、豊かな生活が送れるようにしている。春祭りや運動会は準備から共に行い、餅つき・会議・町内の祭り・避難訓練・掃除等で地域の方・ご家族にご参加・ご協力頂き、交流を深め時間を共有している。冬至は南瓜やゆず湯等昔なじみの行事や季節感を大事にしている。常に自己決定出来るように努め、生きてるって素敵の理念を元、個々の想いに寄り添い答えられるように柔軟な対応を心がけ、生き甲斐を持ち楽しくその人らしく生活出来るようにしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、日常的な職員間での情報交換や毎月のカンファレンス等を通じて、利用者一人ひとりに合わせた細かな支援内容の検討が行われている。ユニット毎に利用者一人ひとりの意向に合わせた生活の実現を目指しながら、利用者の中には本人の意向に合わせて日常的に外出を楽しむ等、ホームでの生活が前向きなものになるような支援が行われている。ホームは地域の方との積極的な交流の機会がつけられており、ホームの共有スペースを活用した毎週の「ふれあいサロン」が開催されている。毎回、地域の方の参加が得られており、サロンを通じて、ホームや併設の小規模多機能事業所を知ってもらう機会にもつながっている。また、運営法人全体で職員研修のと取り組みが行われており、年間を通じて様々なテーマで職員研修を実施しており、職員の資質向上に向けた取り組みが行われてい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月ミーティングで確認・共有し実践に繋がっている。共有ルームに掲示し常に意識できるようにしている。ミーティングで話し合い1人1人を知り、その人らしく過ごせるように努めている	運営法人の基本理念をホームの支援の基本と考えながら、毎月の職員会議の際には、職員間で理念を唱和し、内容を確認する取り組みが行われている。また、職員間で目標をつくる取り組みを行い、理念の実践にもつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	お祭りで休憩所として開放しお神輿を迎えたり、消防訓練、ゴミ集めに利用者に参加し地域の一員として交流に努めている。散歩や買い物時積極的に話をしている	地域の他とは、ホームの共有スペースを活用した、毎週の「ふれあいサロン」を開催しており、地域の方の参加が得られている。また、老人会の方の協力を得た餅つき会等、地域の方にホームを知ってもらう取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行事・会議・認知症カフェに参加して頂けるように努め、意見交換できるようにしている。施設をサロン開催場として解放し支援方法を見る機会がある。訪問者・実習生等に認知症の理解をして頂けるように、話をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会長・長寿会・民生委員・役所・ご本人・ご家族に参加頂き、年に6回行事を含み行っている。話しやすい雰囲気を作り活動報告し、意見・要望・地域行事内容の情報等を話し合いサービス向上に活かしている	会議の際には、併設事業所とも連携して開催しており、ホームの現状を資料で報告し、出席者にホームの運営状況を知ってもらう取り組みが行われている。会議を通じたホームの行事を開催する機会もつくっている。	行事以外の会議については、家族の参加が得られていない状況でもあるため、運営面に関する意見交換等も含め、継続的な家族への働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	春祭り・運動会・餅つき・会議等に参加して頂き、事業所の取り組みを見て、感じた事を意見交換が出来る関係作りに努めている。日頃の連絡は主に管理者が行い、協力関係を築いている	市内の介護事業所との連絡会や市の研修会等にホームからも参加する機会をつくり、情報交換の機会につなげている。また、近隣の介護事業所と連携した認知症カフェの開催や認知症サポーター養成講座に協力する取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化検討委員会を設置し、拘束ゼロ及びサービス向上を目指し、3か月事に話し合っている。内部研修で職員全員が学び、指摘し合い・振り返り・共有し身体拘束をしないケアへ意識を高め取り組んでいる	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者がホーム内を自由に移動できるように職員間で連携した支援が行われている。また、専門の委員会による検討会議や定期的な職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修で学び理解に努めている。ヒヤリ等利用したり、1日を振り返る時間を作り、虐待に繋がるケアが無かったか職員間で話し合い虐待防止に努めている。職員のストレス度合いも観察し情報共有をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在1名利用されている。日常生活自立支援事業や成年後見制度・法的な知識について理解している人は少ない。今後学ぶ機会を持つ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、管理者が疑問点が無いように話し、理解頂けるように努めている。解約時、管理者・リーダーで連携し、ご本人・ご家族の想いを伺い話をしていく。改定時、家族会等開催し納得頂けるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	会議・家族会・面会等で意見・要望を表せる機会がある。ご本人・ご家族に積極的に話し、想いを聴き反映に努めている。連絡帳・申し送りで職員間の共有に努め、苦情はすぐに管理者に報告している	家族会の開催の他にも行事(春祭り、運動会、餅つき等)を通じた家族との交流の機会がつけられている。運営法人でアンケートを実施しており、家族からの要望等の把握が行われている。また、毎月のホーム便りには、担当職員による報告が添えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に2回の面談・ミーティング(フロア・行事・リーダー)で意見が言える。言えない人は文書でも聴いている。面談や日頃の会話から意見を聞き、行事は企画から、ケア内容や勉強会の内容も職員が行いたい事を取り入れている	日常的には、ユニットリーダーを中心に運営を行い、職員からの意見等を把握しながら管理者に報告しており、ホームの運営への反映につなげている。管理者による職員面談の取り組みも行われている他、職員間での定期的な食事会の交流が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談で個々の状態把握しやりがいある目標を共に決めている。定期的に目標の振り返り・要望等話し、向上心が持てるようにしている。年1回健康診断・ワクチン接種、ユニットで3か月に1回・全体で年1回食事会がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修は年6回。個々に行動計画・実施・振り返りを行っている。管理者は個々の力量を把握し外部研修を勧めたり、年1回事業所負担で行けたり、働きながらトレーニング出来る様努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同グループ内の研修・行事・会議等で交流する場があり、意見交換し質の向上に繋がるように努めている。他事業所と交流がない。尾張地区のネットワークがあるが参加できていない。関係を深めていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ゆったりとした雰囲気を作り、困り事・不安・想いを引き出せるようにしている。笑顔で明るく接し、しっかりと寄り添いながら、早期の信頼関係構築に努めている。他者等の仲介に入り早く馴染めるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時、管理者が困り事・不安・要望等を十分に話し合い、気持ちを共有できるような関係作りに努めている。日頃から笑顔で話しやすい雰囲気を心がけ、小さな事にも耳を傾けて要望に応えられるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人・ご家族の想い・希望を伺い、管理者と職員で話し合い、他のサービスでも今その人が必要としている支援を見極め、より良い生活が提供出来るように努めている。その為に情報収集にも心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として尊敬し、知恵を頂く・重い荷物を持つ等、支え合っている。日常生活を共に過ごし家族のような関係作りに努めている。思いやり・協力し合い、喜び・不安等の想いを共感理解に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時等、少しの変化を含め近況報告・情報交換を心がけ、ご要望・ご意見を聴き共に支え合う関係作りに努めている。ご家族と今までと変わらず絆を大切に、いつでも来設しやすい・話しやすい環境作りをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの喫茶店・病院・理髪店等にご家族やご友人と行っている。気軽に立ち寄れる雰囲気を作り、共有ルーム等で話している。会話の中から得た馴染みの店等に行く事もあり、関係が途切れないように努めている	利用者の中には、希望にも合わせて入居前からの生活習慣を継続しており、ホームでも支援が行われている。サロン等に利用者の友人や知人が参加する機会も得られている。また、家族との外出が行われており、家族と遠方へ出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係性を把握し席を決めている。ソファで話す・共に洗濯を干す等の場面が見られる。孤立せず、職員も共に過ごし、利用者同士が関わり支え合える関係作りに努めている。他者に対する想いにも耳を傾けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、今までの関係性を大切に、必要に応じてご本人・ご家族をフォローし困らないように相談・支援の場となるように努めている。いつでも来設出来て、話しやすい雰囲気作りを心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がどうしたいのか・その人らしい生活ができるように、表情・言動等を見逃さず、思い・要望の把握に努めている。連絡帳・ミーティング等で共有し、ご本人・ご家族と相談しながら実践出来るように努めている	日常的に職員間で情報交換を行う時間を設けており、職員による利用者に関する気付き等をメモも活用しながら共有し、意向等の把握につなげている。毎月のカンファレンスの際には、利用者に関する細かな検討が行い、意向等を日常の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時・アセスメントシートやご本人・ご家族の会話から暮らし方・趣味等の把握に努めている。日記記入・サプリメントを飲む等、今までと変わらない事が出来、その人らしく楽しく・安心して暮らせるように支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	食事・排泄やバイタル・言動・作業等から心身状態・有する力の現状の把握・共有に努めている。1人1人違っていい事・出来ないと決めつけず共に行う・いつもと違うの着眼点を持つ事を心がけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回のミーティングで、介護計画に沿って気付きを話し合い、見直し・変更をしている。ご本人・ご家族等、それぞれの意見・要望・アイデアを反映し、ご本人がより良く暮らす為の現状に即した介護計画作成に努めている	介護計画の内容は6か月毎に見直しており、毎月のカンファレンスを通じたモニタリングを実施し、利用者の変化等の把握を行っている。また、日常的にも生活記録表に介護計画の内容を記載しており、チェックを行いながら支援と記録の実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録に介護計画内容を記載し、実践時チェックしたり、日々の気づき・言動等5W1Hや色を変えて解り易く記入する事に努めている。連絡帳や申し送り等で情報共有し、実践・介護計画の見直しに反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その日その時に生まれる、ご本人・ご家族のニーズに応えられるように、管理者・職員で話し合いをしながら、柔軟な対応が出来るように努めている。ご本人の真の願いを叶えられるように、ニーズの見極めに努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	スーパー・喫茶店・ゴミ捨て・散歩・行事参加で関係作りに努めている。ご本人利用の病院・美容室・店等にご家族や職員と行く事があり、個々の地域資源の把握に努め、楽しく安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月1回往診医の診療がある。急な診察もご本人・ご家族に伺いながら受診し必要時付き添っている。往診医に加え3名がかかりつけ医で受診している。ご家族協力の下、安心して受診が出来る様に情報提供している	協力医による医療面での支援が行われているが、利用者の中には今までのかかりつけ医を継続しており、家族による支援が行われている。受診については、ホームでも対応し、柔軟な支援につなげている。また、看護師による医療面での連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月3回看護師訪問があり、体調変化・気づき等、報告・相談し指示を仰いでいる。いつでも連絡出来る体制にあり、緊急時等も適切な受診や看護が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供書作成。定期的に見舞いに行き、ご本人が安心出来ると共に、関係者やご家族と話して現状把握に努めている。退院時、看護師・相談員と情報共有し、ご本人・ご家族・管理者と話し合い、安心して帰ってこられる環境作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時、管理者が説明している。変化時、ご家族とご本人はどうしたいのかを共に考えている。今後起こりうる事、事業所の出来る・出来ない事等の説明をしている。臨時のミーティングを開催する事もあり、ご本人にとってよりよい生活が出来るように支援している	身体状態の重い方への支援については、ホームでも可能な支援が行われているが、ホームの支援体制もあり、現状は医療機関等への移行支援が行われている。家族との話し合いを重ねながら、ホームで支援可能な内容等の確認が行われている。	家族との話し合いの中で、ホームでの看取り支援に関する意向も確認しているが、医療機関等への移行となる場合が多い現状もある。ホームの継続的な体制づくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変に備えて応急手当や初期対応を内部勉強会等で学んでいる。マニュアルや連絡体制は目につく所にあり備えてある。いつ起きても職員全員が対応が出来るように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年4回担当職員がテーマを決めて様々な想定で避難訓練を行っている。参加出来なかった人も周知が出来るように、書面に残して確認をしている。地域の防災訓練に参加させて頂いている	年4回、様々な想定のもとで避難訓練を実施しており、ユニット毎の訓練や併設事業所との合同の訓練を実施している。地域の災害訓練にホームからも参加し、地域の方との連携が行われている。また、ユニット毎に備蓄品の確保が行われている。	ホームは河川に近いこともあり、水害を想定した訓練も実施している。2階にある併設事業所に集まってもらう機会を増やす等、水害に関するホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として敬意を払い、言葉遣い・態度に配慮している。個々・場面によって声掛け等を変え、常に労い1人1人の尊重に努めている。ご本人の立場を考えた対応に努め、職員間で振り返り指摘し合っている	ホームの基本理念として6項目にわたる指針がつくられており、職員による利用者への支援の基本にもつながっている。日常的には管理者やリーダーからの注意喚起が行われている。また、接遇にもつなげる職員研修も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	おやつ・献立・誕生日プレゼントや祝い方・掃除・入浴のタイミング等、ご本人の想いを聴き、相談しながら行動し、自己決定が出来る様にしている。決めつけず、思い・希望を汲み取り、引き出せるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	朝ゆっくり・夕方に運動・お酒を飲む等、その人らしいを大切に1人1人のペースで過ごせるように努めている。どう過ごしたいか言動等注意深く観察し、気分や体調に合わせ、希望に沿った生活の支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服・髪型・髭・爪に気を配り整えている。外出時はオシャレな服を、祭り時化粧やネイル、時計・指輪等、その人らしいオシャレが出来るようにしている。定期的に美容室訪問もある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたい物を聞きながら献立作り・買い物・調理・片付けを共に行っている。1人1人の出来る事・好き嫌いの把握に努めている。季節感・行事に合った食材や彩に配慮し、食事中も会話し楽しみとなるようにしている	ユニット毎に利用者の希望や好み等を確認しながらメニューを考えている。利用者も買い物、調理、配下膳等、できることに参加している。季節に合わせた食事作りも行われている。また、食事の際には職員も一緒に食事を行い、会話を楽しむ機会をつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1汁3菜の献立で栄養バランスを考え、食事・水分量をチェックし個々に合った食事量の提供に努めている。梅干し食べたい・ご飯大盛り等要望や、体調不良時お粥やアイスクリームの提供、細目に水分を勧め支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、個々に力に合わせた対応を心がけ、ご自分で行えるように支援している。磨き残し確認に努めている。義歯の方は毎晩洗浄と週1回ボリデントを行っている。4名が訪問歯科を利用し掃除や指導を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄表を利用し、個々のパターン把握に努めトイレで排泄が出来る様に声掛けしている。誘導・失敗時、声掛けに十分注意している。動きを観察し行きたい時を見逃さないようにしている。使用品もミーティングで話している	日常的な排泄記録や申し送りノート等も活用しながら職員間で情報を共有し、利用者に合わせた排泄支援が行われている。トイレでの排泄を基本に考えながら、日常の申し送りや毎月のカンファレンス等を通じて、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日ヤクルト・フルーツ・飲食物を工夫し提供している。朝排泄表に便秘日数を記入し、トイレにゆっくり座る・お腹をさする・ミルク等水分を勧める・活動量を増やす等、個々に合わせ自然排便が出来るように取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	1番・ぬるめ・シャンプー使用等、個々に沿って1日おきに行っている。嫌な時は無理しない。季節の菖蒲湯・ゆず湯・入浴剤を使用。音楽をかけ談笑しながら1人1人ゆったり寛ぎ楽しめるようにしている	ホームでは、利用者が週3回の入浴が行えるように、時間も午前と午後に対応している。入浴日に入浴ができなかった方も、翌日に入浴を実施する等の取り組みが行われている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行い、利用者の楽しみにつなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ソファ・自席・自室等で好きな時・場所で休める。夜間眠れるように昼間活動をし、夜間眠れない時はスキンシップを図ったりホットミルクを提供している。音・室温・照明等個々に合わせ安心して眠れるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内部研修で薬の重要性を学び、効能・副作用の理解に努めている。薬剤情報・病名等薬箱に掲示し常に確認が出来るようにしている。薬変更時は、変化等を見逃さないように観察する		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	アセスメントシートやご本人・ご家族から楽しみ等知る事に努めている。お菓子・俳句・歌等の楽しみ、習字・家事等、得意・出来る事を個々に見極め、理解に努めている。1人1人が喜びある生活になるように工夫している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物・散歩・ランチ・モーニング・月1回の遠足等があり、季節感を大切に相談して外出先を決めている。ご家族に協力を得ながら、個々の馴染みの場所へ行けるように努めている。又、ご家族ともご自宅へ行ったり・法事・ランチ・喫茶店行く事もある	日常的に外出の機会をつくり、近隣への散歩や買い物等、利用者の外出が行われている。年間を通じた外出行事が行われており、ユニット毎に様々な場所への外出が行われている。また、利用者の意向に合わせた喫茶外出等の個別の外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員側で管理をしている。買い物や喫茶店等で支払い、帰設後出納帳記入・計算を行い、お金を触る機会を作っている。欲しい物がある時は共に買い物に出かけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	行事の招待状にご本人にコメントして頂き、ご家族に送っている。希望時電話が出来る。その際、他者に配慮しながら話しやすい雰囲気作りを心がけている。手紙や年賀状は、ご本人とご家族に確認し返信している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や廊下は柔らかい照明、場面に合わせた音楽、温度差をなくし清潔に心がけている。木を使い温もりがある。廊下やフロアに季節感を取り入れた飾り・写真・壁画等掲示しご利用者同士やご家族と話している。ゆったりと過ごせ居心地がいいように工夫している	リビングは広めの空間が確保されており、窓が大きいことで採光にも優れており、利用者は日中を明るい雰囲気でも過ごしている。また、通路の壁面には利用者の作品や行事での様子を写した写真を掲示する取り組みが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内に食卓スペースとソファとテレビの空間があり、他者と話す・ソファで横になる・一人で書き物する等、思い思いに過ごせるように努めている。共有ルーム・他ユニットに自由行き来出来る環境作りをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたタンス・布団・ご家族写真等、馴染みの物を持参している。自宅にいるように安心感が持てる様に工夫している。個々の空間を大切に、危険なく心地よく過ごせるようにご本人・ご家族と相談して作っている	居室については、利用者や家族の意向に合わせた家具類の持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気の居室もあり、一人ひとりに合わせた対応が行われている。また、利用者の馴染みの物、家族との写真や思い出の品々の持ち込みも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	館内はバリアフリーで廊下も広く、車いす自走も出来る。至る所に手すりがあり階段も昇れる。居室の名札・トイレの明記している。見守りの中、個々の解る事の把握に努め安全で自立した生活が送れるようにしている		